

# 令和7年度第3回第2部会高砂市総合政策審議会

## 議事録（要旨）

開催日時	令和7年10月22日（水）14：00～15：45					
開催場所	高砂市役所分庁舎1階 大会議室					
部会長	田端 和彦					
委員 (名簿順、 敬称略) 出欠	出席	中尾 進	出席	阿部 伊三男	出席	松井 藍
	出席	寺延 順市	出席	山里 護	欠席	竹内 茂雄
	出席	中井 八重美	出席	西牟田 和子	欠席	稻垣 稔
	欠席	大森 裕	出席	飯塚 一哉	欠席	逸見 信也
	出席	大竹 良次	出席	山田 隆広		
議事	協議事項 (1) 第5次高砂市総合計画令和7年度実施計画（兼行政経営プラン）の中間評価について (2) 第5次高砂市総合計画後期基本計画について (3) その他					
資料	事前配付資料 令和7年度第3回高砂市総合政策審議会第2部会会議次第 高砂市総合政策審議会委員部会名簿（第2部会） 資料1 第5次高砂市総合計画実施計画令和7年度実施計画（基本目標1、3） 資料2 関連政策別市民満足度調査結果（基本目標1、3） 当日配布資料 資料3 第5次高砂市総合計画後期基本計画（素案） 参考資料 シミュレーション別将来人口推計					
議事の経過						
開会	<本日の資料の確認> <本日の進行について説明> <出席者・事務局紹介> <会議の成立> <部会長挨拶>					
	本日は、通常この審議会で行っている実施計画の進捗状況の確認及び皆さんのご意見を伺いながらある程度形になってきた総合計画後期基本計画の素案について審議する。 総合計画後期基本計画については、今後市長からのご提案として議会に諮る流れになる。皆さんのご意見がこのような形で政策に活かされていくのだと、心に留めおいていただき、その政策が実際どのように動き、変わっていくのかを実感していただきたい。そして、できれば多くの人に知っていただきたいと思っている。					

市民が参画しながら政策を作り、市民がその政策によってどのように生活が変わっていくかを実感していただくことにより、市政への関心も増え、市民が正しい情報を読み取ろうといった動きにもなっていくと考える。

委員の皆さんには忌憚のないご意見をいただきたい。最近はグループワークスタイルで審議会を実施している。このスタイルは非常に好評で、色々な方からご意見をいただける機会になり、またお互いに気づきがある。本日もこのスタイルで審議会を行うため、協力をお願いする。

## 協議事項 1

### 第5次高砂市総合計画令和7年度実施計画（兼行政経営プラン）の中間評価について

(事務局)

資料を基に各政策の中間評価及び市民満足度調査結果との関係について説明

(部会長)

ただ今の内容について、それぞれのグループで話していただき、後ほどご意見やご質問をまとめて発表していただきたい。

この第2部会では基本目標1と基本目標3の政策について議論する。班ごとに各基本目標について議論していただきたい。その中で特にどこに関心があったかをご発言いただき、最終的に出た意見を報告してもらいたい。

<グループワーク>

(部会長)

意見を出していただき、グループで共有していただいた部分もあれば、できていない部分もあると考える。どなたからでもよいので発表いただきたい。

(委員)

資料1、政策1－2の14、15ページについて発言する。14ページのKPI「道徳アンケート『人は親切にしたいと思う』」の回答率について、令和5年度までの調査では90%以上を推移していたが、令和6年度は83%まで下がっていることが気になるという意見が出た。これが、この学年だけなのか、アンケートの質問項目が変わったのか、分かることがあれば教えていただきたい。

次に、15ページ「家庭学習の支援」の指標、全国学力・学習状況調査における「朝食を毎日食べていますか」の肯定的な回答の割合に関連して話す。最近、朝に起きられない子どもが多く、小学生、中学生ともにいわゆる起立性調節障害が多くなっていることが問題になっていると聞いている。

これについて、私はスマホやタブレットの使用状況が影響していると考える。多くの子どもが朝に起きられないのは、夜遅くまでスマホなどを触っているためなのではないか。使用状況を調べると、関連性が分かってくるのではないかと考える。

(部会長)

回答はまとめて行うため、他にご意見があればご発言をお願いする。

(委員)

資料1の16ページに関連して、以前に自習スペースの確保について発言した。この内容について、高砂市にお礼を申し上げたい。

私の情報では、図書館の自習室において、今まで机1台に1人までしか座れなかつたのを2人座れるように改善している。また、今まで図書館のカードを持っていなければ自習室に入れなかつたが、誰でも自由に入退室できるようになり、自習室が非常に使いやすくなつたという報告を受けている。

ただ、16ページにも記載があるように、図書館の自習室だけでは、なかなか勉強したい方の願いを叶えられないため、それ以外でも作っていただきたいと申し上げた。その後どのような方向に進んでいるか教えていただきたい。

(委員)

15ページの「家庭学習の支援」について、中間実績が89.2%となっている。学校から家庭学習にウェイトを置いてきているのかと考える。それに対し「学校のあり方検討事業」や「適正規模適正配置基本方針の策定」の進捗度が50%となっているが、その理由について説明を願う。

(委員)

「学校のあり方検討事業」について、委員として入っている立場として発言する。これは学校のあり方について計画を立てるもので、現時点で半分が終了していることからこの数字になっていると考える。残りの半分は計画を立て終われば、おのずと100%になる。

(部会長)

ご質問があった件について、事務局に回答を願う。

(教育部長)

KPIの道德アンケートについてだが、実際にはこのアンケートが令和5年度で終了し、令和6年度以降は同じアンケートを実施していない。このため、同じ指標での比較が難しくなった。

令和6年度は、学力・学習状況調査の中で、趣旨は若干異なるが同じような項目があり、その項目で比較したことから、極端に下がっている状況になった。そのため、政策部と相談し、注釈を付ける等の対応をしていきたいと考える。

また、デジタル機器の使用について、学力・学習状況調査において生活アンケートのようなものがある。その中で、平日一日あたりどのぐらいの時間テレビや携帯電話、ゲームに費やすかという質問もある。また、別の質問で、携帯電話でSNSやYouTubeといった動画をどれぐらい見るか、というような質問がある。その結果を示すことは可能である。

(部会長)

次は自習スペースについて回答をお願いする。

(政策部長)

図書館についてはご紹介いただいたような工夫をしており、地域交流センターでは元々図書室であった部屋を皆さんに開放できるようにして、案内している。文化会館でも自習室の

開放について、指定管理者の方で工夫していただいている。限りある場所ではあるが、できる限り公共施設を使っていただけるように、PRしていきたいと考えている。

限られたところで、まだまだ不満なところもあると思うが、行政としてできる限り、自習スペースの開放をしていきたいと考えている。

(部会長)

1点目として、子どもの教育に関するご意見が多く、質問も集中している。市民に対してどのようなロジックでこのKPIを扱っているか分かりやすくしてもらいたい。

また、先ほどグループワークの中で朝食に関するご意見が出たが、朝食を食べる子は成績がいいというのは、朝食が直接影響しているわけではなく、親がどれだけ子どもに关心を持っているかが関係していると言われている。そういう意味で、政策ロジックは、子どもの成績を上げるために、そのような家庭環境を作っていくことが重要だろうということ。それに対してのロジックが分かりやすく、その上でKPIが明確になっていれば一番よい。

2点目として、デジタル機器の使用については調査があるという回答だったが、例えば、愛知県豊明市の条例のようにデジタル機器の使用時間を定めたところもある。そういう政策を立てるのかどうか、調査だけではなく検討も必要ではないかということである。

3点目の学習室については、先ほどのご回答の通りである。これからもぜひ進めていただきたい。

(委員)

追加で申し訳ないが、資料1の24ページ「#7119」について、私は電話をしたことはないが、人に聞いたところ実際に「#7119」に電話すると自動音声の応答になるとのこと。緊急を要するのに、なぜ自動音声の応答になるのかを説明していただけないか。

(健康部長)

「#7119」について、県内では神戸市、芦屋市、姫路市の3市でしか実施していなかった。令和7年7月11日から県下の全市町で実施が開始されている。

「#7119」にかけると、必要性に応じて、自動音声で短縮ダイヤルを入力する必要がある。その中で、専門の看護師等の資格を持った者がどのような状況か、救急車を呼ぶ必要があるか等の対応をする。救急車の対応が早急に必要であるのであれば、担当者から救急要請をする。その必要性がなければ、病院の受診が必要か否かを、看護師等の資格を持った方が案内してくれる。実施が始まったばかりで、県から実績報告が出たばかりである。まだ2箇月足らずの7月11日から8月末までの実績ではあるが、実際に高砂市でも291件を対応し、そのうち救急搬送が11件あったという報告がある。

まだ「#7119」は十分に周知できていない部分があるため、しっかりと周知に努めていきたいと考える。

(委員)

資料1の22ページ「がん検診受診率」が低いことについて発言する。

私も先日、がん検診の予約しようと思い、市民病院に電話をかけたが、窓口の電話がなか

なかつながらなかった。窓口の予約担当の人が別の電話対応中ということで、時間をおいて電話するように案内され、その後2、3回かけたがつながらなかった。その後、午前中の受付は12時までと言われ、午後は2時以降にかけるように案内された。

受付時間が短い中で、働いている人が予約を取ろうとしてもなかなか予約ができない。今の時代はネットもあるため、思いついたときに予約ができるシステムを作らなければ、受診までのハードルが高い。

(部会長)

自動化できるものは自動化し、人間が対応するものには人間が対応するという区別が必要ではないかと考える。がん検診の予約の仕方については、審議会の意見として、できれば採用いただきたい。

(委員)

立場上、様々な自治体の会議に参加している。それぞれの自治体が審議会等に取り組んでいるが、おそらくその究極の目標は、消滅自治体が出てくると言われる中、自治体としてどうやって生きていくかが、おそらくその根底にあるのではないかと考える。

県内の過疎地域を抱えるような自治体で意見を聞くと、地元で働く場がないから若者が出てしまい、一度出ていくと戻らないという。それに比べると、高砂市の場合は働く場所に恵まれている印象を受ける。

県内では、中学生の早い段階で市内の企業見学に連れていくという自治体もある。地方の自治体であるため、大学進学により若者がまちを出ていくのも仕方がない。しかし、そのうちの10人に1人でも戻ってくる人がいたときに、自分のふるさとにはこのような会社があったということを思い出してもらいたいと、非常に長いスパンで考えている。

そのように、若い世代に地元企業を見てもらう場を提供している自治体もある。それには、企業の受入体制、あるいは学校も年間のカリキュラムが決まっている中で、その時間をどう捻出するのか、校外に連れて行くことに対する事故のリスクをどう考えるか等、ハードルがあると思う。しかし、県内で実施している自治体があるため、少しでも高砂市に参考になればと考える。

高砂市にはこれだけ働く所がある。夕方に荒井駅から東へ向かって帰る人の多さを考えると、せめてその1割でも高砂市に居住してもらえば、人口を増やすことができるのではないか。人口減少に少しでもブレーキをかけられるのではないかと考える。

もう1点、20ページの政策3-3について、先ほどの話ともリンクするところがある。最近の特に若い世代は、1つの会社に留まろうという意識が非常に少ない。私は官公庁勤めだが、それでも多くの若い人が辞めていく。大きいところに就職しても、いつリストラがくるかわからない。その中で、1つの会社にしがみつくことは現実的ではなく、逆にリスクだという考え方が増えている。働くことに対して非常にドライになっていると考える。

居住地についても、今の若い人は非常にドライだ。転勤する度に住居が変わっていく若い人が増えている。そのように転入してきた人に対し、スーパーがあることや、将来的に結婚した後の子育て環境など、どう引き止めるかというところにヒントがあると考える。

人口流出には、県内のどの自治体でも問題意識がある。県内でも大学が多い自治体では、

多くの学生が来るが、卒業するとみんな出ていく。そのような自治体は住宅地がメインとなっており、それに比べると、高砂市は反対に、大学はないが働く場には恵まれている。その資産をどう活用していくかが1つのヒントになると考える。

(委員)

令和6年12月頃に複数の会社と共同で、お仕事体験フェスタというのが開催されていたが、令和7年度は開催がない。こうした取組を継続的にやることで、高砂市の企業を知ってもらう機会ができるのではないか。お仕事体験フェスタは家族単位でこどもを連れて、非常に盛り上がったイベントだった。補助金等の関係と聞いたことがあるが、こうした取組を持続的に開催できたらと考え、発言させていただいた。

(委員)

今の若い世代は終身雇用という感覚が非常に少ない。自分の人生のそのときの環境により、自分の働く場、住むところを変える。特に20～25歳頃の人たちの多くは独身で自由が利く。大きい会社に勤めていても、リストラにあったというようなニュースをよく目にするため、一度就職したら老後まで安泰という考えは一切ない。

先ほど職業イベントの話が出ていた。高砂市には様々な企業があるが、小・中学生に聞いても大手企業しか思い浮かばない。もっと働く場の多様化が必要だと考える。地元企業を知らないまま外に出て、大学に行き、働く仕事を探す。多くの仕事が高砂市にもあると知つていれば帰ってくると思うが、知識がなければ、大学で勧められた就職先を選んでしまう。結果として、若者が高砂市から離れる理由の一端になっているのではないかと考えている。

(部会長)

地方創生2.0の中では、若者や女性の考え方を受け止めなさいと記載されている。それを踏まえて何ができるのかという話になる。高砂市の持つ資源、つまり企業や商業施設などを今の若者たちはうまく使おうとしている。

今までのメンバーシップ的な仕組みでは、もう若者は動いてくれない。先ほど申し上げたように、地方創生2.0は若者や女性の声にしっかり耳を傾けなさいのことから、それに合わせた施策を考えていく必要がある。

そういう状況を踏まえて、政策を考えることが重要ではないか。例えば、中学生の早い段階から高砂市に愛着を持つようなプランを作っていく。高砂市の企業に勤めると通勤時間を短くできるインセンティブがあるため、それを活用して、高砂市のショッピングセンター、商店についても利便性が高いということをしっかり理解してもらい、惹きつけるようにして、活用してもらう。

つまみ食いでもいいから、若者が定着するような方向に持つていけないかというご意見だった。

## 協議事項 2

### 第5次高砂市総合計画後期基本計画について

(事務局)

資料3を基に素案について説明

(部会長)

社人研推計は、機械的に数字を出している。それに対して、自治体も努力しており、社人研推計よりも下がらないようにするのが、各自治体で行ってきた人口ビジョンだった。それに対し、実際には社人研推計そのものも、達成することすら難しいのではないかという説明があった。

皆さんには先ほどの説明を踏まえて、2030年の人口展望81,000人が妥当か否かについて、改めて話し合っていただき、ご意見を聞かせていただきたい。

<グループワーク>

(部会長)

人口推計については、難しい部分もある。高砂市レベルであれば、数百人という違いが出ることははあるが、ある程度予測の可能な範囲である。それに対してどのように人口展望を考えるかは、皆さんからもご意見があるのではないかと考える。どのようなご意見があったか紹介してもらいたい。

(委員)

結論までは出ていないが、合計特殊出生率については、シビアに目標設定をしておくべきだと考える。目標81,000人を達成するための合計特殊出生率は1.64と示されているが、合計特殊出生率1.39から、現在はまだもう少し下がっているであろうという予想の中で、5年後にその数値まで上げるのは厳しいと考える。これを踏まえたうえで、ある程度、転出超過者数とのバランスを調整しながら、社人研推計の80,300人を目標値と考えるのが、一番よいのではないか。転出超過者数については、これまでも施策を打ち出している中で、今後の施策によりある程度減少が見込まれるところがあれば、目標は達成できると考える。

(部会長)

合計特殊出生率の1.64が厳しいのではないかというご意見だったと考える。その部分については転出超過者数を抑えることで対応できないか。しかし、施策については決め手がないのではないかというご意見だった。

(委員)

皆さんと同じく、81,000人はおそらく達成不可能だという見解である。目標に対する

る転出超過者数と合計特殊出生率が示されているが、達成見込みがないからと 80,000 人を目標にしても、合計特殊出生率は 1.4 となっている。先ほどご意見があったとおり、この合計特殊出生率をどうするかは、若い世代のライフプランニングが大きく関わってくるものになり、市だけでの対応はなかなか難しい。

そのため、転出超過者数をいかに減らしていくかというところに注力をしていくことになる。そしてそれに伴って、合計特殊出生率の上昇を目指す。今まで高砂市としてできる限りの施策をうって、現在の状況になっていることを考えたときに、実際の数値について 81,000 人とした場合、計画上、形だけの目標になるのは目に見えている。

ただ、80,000 人に目標設定をして施策をうっていったとしても、80,000 人が達成できるのか。また、80,500 人という中途半端な数値で設定するのか。

目標値としては、81,000 人とするのか、現状が社人研よりも低い推移であるため、80,000 人を目標として、それよりも上を目指すと理論づけて設定するのか、どちらかが選択肢になると考える。

#### (部会長)

東京都のある自治体では、人口減少をこれ以上抑えるのが難しいだろうという意見が出ていても、まとまらなかった。なぜかというと、先ほど意見にあったように、目標を下げてもその目標を達成することも難しい。そして、そもそも目標を下げるのがどうかというところがある。それを高砂市としてどうするかを問うご意見だった。

事務局から何か回答はあるか。

#### (事務局)

今のご意見からすると、80,000 人というのも 1 つ選択肢としてのあるのではないかと考える。明日、第 1 部会を開催するため、そちらでも同じくご意見をいただきたいと考えている。

また、今後の総合計画に関するスケジュールについては、12月の中旬から 1箇月程度の期間でパブリックコメントを実施する予定になっている。審議会でいただいたご意見を基に府内で協議を行い、最終的な素案についてはパブリックコメントの前に委員の皆さんには資料の提供をさせていただきます。

令和 8 年の 1 月末または 2 月頭あたりに今年度最後の審議会を予定している。最後の審議会では総合計画に関する答申となるため、また、皆さんにご意見をいただきたいと考えている。

## 協議事項 3

### その他

(事務局)

事前に市民病院の将来予測の結果による経営形態について、広報たかさごの記事のコピーを配布している。

将来予測の結果による経営形態案に関する説明会を全4回中すでに3回実施している。最後の開催については、生石研修センターで実施される。説明会は11月26日（日）15時からとなっている。この案の内容を市長が説明している動画も、市のホームページにアップしている。資料の左側にあるように、出前講座やパブリックコメントを予定している。ご興味があればよろしくお願ひする。

(委員)

総合計画に「まちを考え、行動する市民活動があるまち」として、市民活動政策の項目が載っている。これに関連して、11月19日（水）に講演会などを実施するフォーラムを高砂市文化会館の東会館で開催する。世代間交流と共生のまちづくりというテーマで、審議会の部会長も講演をされる。興味があれば参加いただきたい。申込不要で入場料は無料となっている。

(事務局)

次の審議会は1月末から2月頭での開催を予定している。日程については改めてご連絡させていただく。